第２研究課題　第２分科会

「子供の発達に関する課題」

研究主題　　「ふるさとに誇りを持って成長する生徒の育成」

―学校・家庭・地域の協働を目指して―

西予市立野村中学校　　水　口　雅　彦

１　研究の概要

「ミルクとシルクの町」野村町。穏やかな風土のもとで育った本校生徒は、全体的に穏やかで明るく、人懐っこい性格である。一方で、学習やその他の教育活動に対して自信がなく、指示待ち型の傾向があり、自己判断力、自己決定力に欠ける面が見られる。

そこで、教頭として学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすよう働きかけ、それぞれの環境を整えたり、生徒への学習面や情緒面での関わりを持たせたりすることで、生徒がふるさとに関心を持ち、そこで生活することに誇りを持つようになると考える。また、学校運営協議会（コミュニティースクール）を活用し、学校の組織や環境等に対して、意見を聞く機会を設けることで、生徒が学校教育だけでなく社会教育とも深く関わることができ、より健全な成長が見られるのではないかと考え、本主題を設定した。

２　研究の内容

実　践　内　容	教頭としての関わり
(1)　地域との連携の強化 ア　地区別懇談会の充実 イ　町ぐるみで行う挨拶運動の充実	○　それぞれの校区で抱える問題点を持ち帰り改善点について、職員会で話し合う。 ○　コロナ禍でも分かる、野村スタイルの挨拶の仕方を生徒会とともに確立する。
(2)　ＩＣＴ教育推進チームの立ち上げ ア　校内体制の構築 イ　必要に応じた会議の招集 ウ　効果的なＩＣＴ利用の情報共有	○　ＩＣＴ教育推進に向けて、校内のＩＣＴ機器の環境を整えたり、生徒の端末を活用した効果的な学習方法の話合いを行ったりする。 ○　長期休業中に日直校務の教員に、教育相談室（Google　Classroom）を開室するよう依頼する。
(3)　ローテーション道徳 ア　学級担任以外の教員の道徳の授業 イ　地域素材を生かした道徳教育	○　全校体制で道徳の授業を行うため、職員への周知と、教務主任と協力して、実践可能な時間割を作成する。
(4)　学校運営協議会の開催 ア　協議委員への協力依頼 イ　意見の吸い上げ	○　学校経営についての理解を求めるとともに、学校の抱える課題について、協議の場を設定する。
(5)　情報提供手段のデジタル化 ア　保護者への啓発 イ　地域・家庭への連絡の時間短縮	○　学校からの情報提供やアンケートをデジタル化することで、保護者や地域への連絡時間の短縮を図り、業務改善にもつなげる。

３　教頭としての今後の課題

(1)　挨拶運動を通して、地域との交流を図る上で、地域の一部の方との交流に留まっているため、今後どのようにして広げていくかを考える必要がある。

(2)　ローテーション道徳では、輪番に授業を行っているため、生徒にとって効果的な場面での授業が必要であると考える。

(3)　ＩＣＴ機器の効果的な活用により、生徒の学習面での向上を目指しているが、目新しさが先行し、実際に向上に至っているかどうかについて検証しなければならない。